

つながる教室

分棟形式による文化施設の提案

1120311 滝島圭祐

高知工科大学工学部社会システム工学科 吉田研究室

料理教室や茶道教室など様々な催しがある「文化教室」。南国市でもいろいろな教室が開かれているが、十分に設備が整っていない場所で行っているのが現状である。そこで、教室ごとに必要な設備を設けた施設を提案する。

Key Words: コミュニケーション、つながり、デッキ

1. はじめに

今日、料理教室や茶道教室などのいわゆる「文化教室」とよばれるものが流行しており、高知県でも子どもや大人、お年寄りといった様々な年代の人が参加をし、楽しんでいる。しかし文化教室に必要な設備が十分に整っていない場所で行っていることも少なくはなく、不便だという話もでてきている。そこで、教室ごとに十分な設備を設け、様々な教室に対応することのできる建築を提案する。

2. 南国市の文化教室

敷地がある吾岡山は南国市にあることから、南国市で教室を開くことができそうな建物（公民館や集会所）の数を調べた。その結果28棟あることがわかった。そこから、敷地から遠い場所にある建物や、JRの線路をはさんで北側にある建物を除いていくと最終的に7棟残った。

この残った7棟だが建てられてから時間が経過していることもあり、老朽化が進んでいる。こうした理由から、既存の建物はあるが建てかえることは可能であると判断した。

3. 敷地の選定

敷地は、高知県南国市にある吾岡山の中腹、及び頂上のサッカーグラウンド脇に建てられている既存の給水塔を敷地とした。

3.1 敷地選定の理由

比較的市街地に近い場所に吾岡山はあり、身近に自然を感じることでできる場所だといえる。周りを自然に囲まれ気持ちのいい中で、文化教室を通し様々な創作活動を行うことにより、よりよい有意義な活動を行えることが期待できる。

昨年発生した東日本大震災では予測を上回る津波が発生した。高知県でも南海地震で津波が発生するといわれている。今回選定した敷地周辺は予測では津波の到達はないとなっているが東北の例もあるので万全を期すということではないが、平地よりも高い場所を敷地とした。



写真1. 吾岡山周辺 航空写真

3.2 敷地周辺の現況

南国市の中心市街地のやや南に位置し、JRの最寄り駅である後免駅からは車で10分という敷地条件である。写真1にあるオレンジ色の線は国道55号線で幹線道路沿いということもあり、車でのアクセスが容易である。高知龍馬空港の拡張に伴い、山頂付近が削られ、できた敷地にサッカーグラウンドやアスレチックが作られた。



今回私が選定した敷地の大半を占める吾岡山の中腹も掘削されてできた敷地だが、こちらは掘削されたあと敷地は放置されており現在は、サッカーグラウンドを利用する学校・クラブチームや、遠足で訪れた学校がバスを止めるために利用されている。

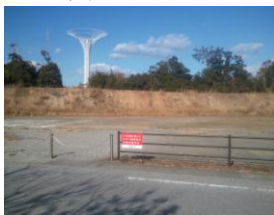


写真2～5. 敷地現況写真

4. コンセプト さまざまな「つながり」

○建物どうしのつながり

分棟で配置した建物どうしのつながりを確保するため、建物を囲うようにデッキを設け、つながりをもたせている。

○人と人のつながり

市街地から少し離れたところに施設を設けると、建物の利用が不便になることがあるが、文化教室を開くことのできる建物を1ヶ所に集めることで、普段関わることのない年代や職業の人たちが教室を通して関わりをもち、コミュニケーションの輪をつなげることが期待できる。

○自然と建物のつながり

選定した敷地が山の中ということもあり、周りには樹木が生い茂っている。また、南側がひらけており、見晴らしがいいこの景色とのつながりをもたせるために、設計した建物の周囲に植栽を配置し、自然とのつながりを意識した。

5. 全体計画

○放射線状の配置プラン

既存の丸い給水塔の中心から同心円・放射状に線を引き、できたマスに分棟した教室を配置していく。

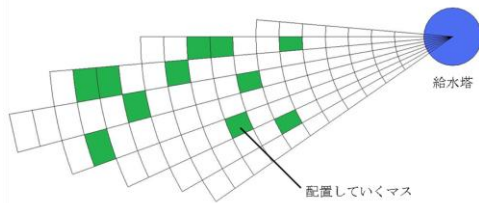


図1. 配置プラン図

○教室のサイズの統一化

教室を設計する際、6×6mの大きさをひとつの規格として設計していく。そうすることで、分棟して配置することにより生まれるバラバラな感じの中に、つながりを生み出すことができる。

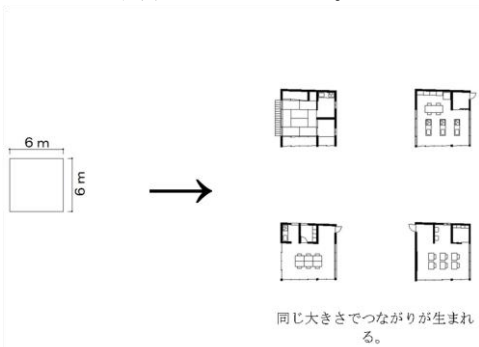
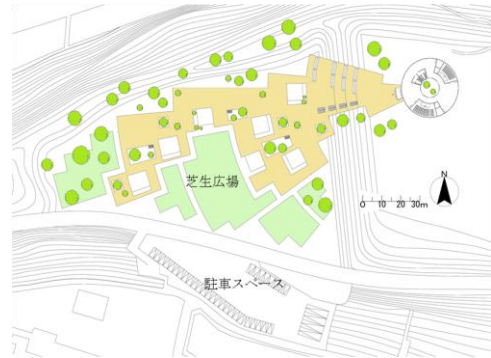


図2. 設計プラン図

○敷地周辺 平面図



○文化教室 平面図



○デッキ・ホール 平面図



○模型写真



6. 参考文献

- ①yahoo 地図
- ②yahoo ロコ 南国市集会所・公民館